

令和2年度「みえの防災大賞」事業

みえの防災活動事例集



みんなで
災害に強い三重づくり
を進めよう！



三重県の
防災キャラクター
なまず博士

令和3年2月
三重県防災対策部

はじめに

近年、大雨や台風による大規模な自然災害が全国各地で頻発しています。また、三重県に大きな被害をもたらすことが懸念される南海トラフ地震の今後30年以内の発生確率は70～80%とされています。風水害は「いつも来る災害」として「日々の備え」を、地震は「いつか来る災害」として「将来に向けた備え」を進めていくことが求められます。

これらの「備え」を進めていくには、日ごろからお住まいの地域における災害リスクを認識し、災害発生時にとるべき行動を理解しておく必要があります。また、自らの安全は自らが守る「自助」、自らの地域はみんなを守る「共助」、行政及び防災関係機関が担う「公助」の力を結集させるとともに、県民の皆さん、自主防災組織、事業者、市町、県、防災関係機関等がそれぞれの役割を果たしていくことが重要です。なかでも「自助」を促進し、地域における「共助」の取組を推進していくうえで、自主防災組織等の団体の活動はとて重要です。

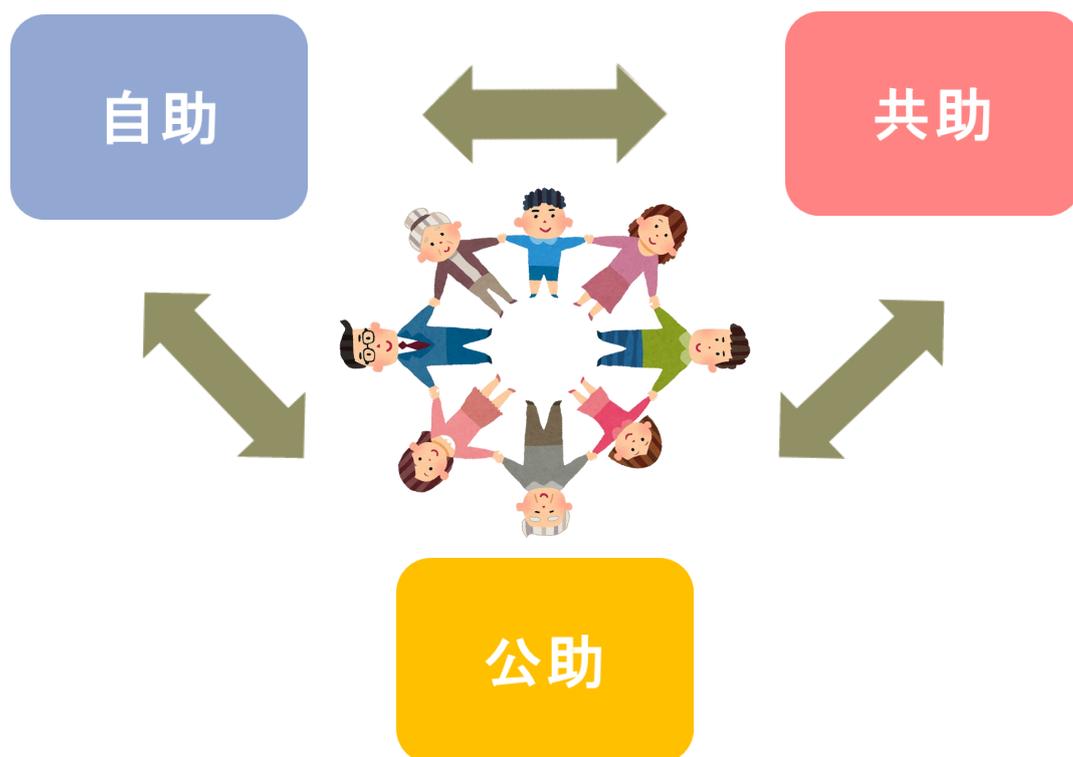
県では、県内各地で自主的な防災活動に取り組まれている優れた団体を表彰し、これらの活動を県民の皆さんに広く知っていただくことにより、「災害に強い三重づくり」を進めることを目的として、平成18年度から「みえの防災大賞」を実施しています。しかし、今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により、普段の活動ができない自主防災組織等が多くなっていることから、これまでの活動募集ではなく、過去の大賞受賞団体や市町等から紹介いただいた自主防災組織等の協力を得て、現在の活動状況等を紹介し、各地域での活動の参考としていただくことを目的とした事例集を作成することといたしました。

作成にあたっては、各団体にアンケートを実施し、新型コロナウイルス感染症の影響があるなかで工夫されていることや、苦労されていることなどについてお答えいただき、その内容を基に編集しました。あわせて令和元年度「みえの防災大賞」選考委員からのコメントやアドバイスも掲載しました。

感染対策の徹底が求められる状況ではありますが、県内各地域で活動いただく皆さまにとって、これからも地域一体となって防災活動に取り組んでいただくうえでの「ヒント」や「気づき」となれば幸いです。

みんなで力を合わせて「災害に強い三重づくり」を進めましょう。

令和3年2月 三重県防災対策部



目次

○これまでの「みえの防災大賞」大賞受賞団体（自主防災組織等）の活動

- ・ 港地区自主防災組織連絡協議会（四日市市）・・・ 4
- ・ NPO災害ボランティアネットワーク鈴鹿（鈴鹿市）・・・ 6
- ・ 柘植地域まちづくり協議会（伊賀市）・・・ 8
- ・ 朝見まちづくり協議会（松阪市）・・・ 10
- ・ かめやま防災ネットワーク（亀山市）・・・ 12
- ・ 南が丘地区自主防災協議会（津市）・・・ 14
- ・ 田曾浦区自主防災隊（南伊勢町）・・・ 16
- ・ 浜郷地区まちづくり協議会（伊勢市）・・・ 18

○市町からの紹介団体の活動

- ・ 大和（たいわ）地区自主防災連絡協議会（桑名市）・・・ 20
- ・ 県（あがた）地区女性防災 クローバー（四日市市）・・・ 22
- ・ 白塚地区自主防災協議会（津市）・・・ 24

○学校における自主防災活動（平成30年度「みえの防災大賞」受賞）

- ・ 三重県立南伊勢高等学校南勢校舎（南伊勢町）・・・ 26

【本活動事例集の構成（例）】

- ・ 団体紹介
- ・ 活動のチェックポイント
- ・ 新型コロナウイルス感染症の影響
（工夫した点、苦労した点 など）
- ・ （みえの防災大賞受賞団体）受賞時から発展している活動
- ・ 活動において苦労していること
- ・ 団体からのメッセージ
- ・ 令和元年度「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

〈令和元年度「みえの防災大賞」選考委員〉

- | | |
|-------------------------|----------|
| ・三重大学 地域圏防災・減災研究センター長 | 酒井 俊典 様 |
| ・三重県商工会議所連合会 専務理事 | 吉仲 繁樹 様 |
| ・三重県子どもNPOサポートセンター 理事長 | 田部 眞樹子 様 |
| ・特定非営利活動法人 みえ防災市民会議 副議長 | 中村 伊英 様 |
| ・みえ防災コーディネーター | 梅谷 伸子 様 |
| ・三重県防災対策部長 | 日沖 正人 |
- （順不同）

※記載内容については、各団体あてに実施したアンケートをもとに作成しています。

平成18年度「みえの防災大賞」受賞

団体紹介

四日市市のコンビナート地帯に隣接した港地区は、「自分は自分で生き延びる」、「自分たちのまちは自分たちで守る」をスローガンに平成8年に結成し、地区全体で防災活動に積極的に取り組んでいます。

発災時の被災状況を想定した自主防災体制づくりや、個人の行動、避難所開設等のマニュアルを作成・配付するとともに、要配慮者に福祉と防災が一体化したまちづくりに向けて「港地区支え合いカード」を作成し、訪問を実施しています。

また、毎月「港地区防災連携企業」を交えた防災会議を開催するほか、総会や合同訓練を実施するなど、多様な主体の協働による防災活動の先駆的取組も展開しています。

今後は、防災リーダー以外の地区住民による避難所運営の確立に取り組む予定です。

ここをチェック！



- ☑企業など多様な主体との連携の構築
- ☑福祉と防災が一体化したまちづくり
- ☑環境の変化等に対応したこまめな防災マニュアルの改訂

新型コロナウイルス感染症の影響

総会、防災訓練、防災関連会議を中止しました。

新型コロナウイルス感染症を想定した取組

- ・港地区防災マニュアル「私たちのまち(港地区)の防災《その2》」を改訂しています。
- ・四日市市主催の感染症対策避難所運営ガイドライン研修会(令和2年8月3日)に参加しました。
- ・防災アンケートを実施しました。(家具固定の有無、非常持ち出し品の準備の有無、地震発生時の避難先等)
- ・感染症対策に応じた避難先や避難方法、避難所内のレイアウト、受付場所と受付方法を検討しました。
- ・マスク、避難所内パーテーション、非接触型体温計等の感染症対策備品を整備しました。

→工夫した点は？

防災訓練ができない代わりに、住民の防災意識を調査し、感染症対策を行った避難所運営の方法や避難先の再検討等、住民への防災啓発を行い、防災について考える機会を設けました。

→苦労した点は？

防災訓練を中止する決定をするまでに、何度も検討を重ねる必要がありました。また、会議に通常の人数を集められず、意見が乏しくなりました。

みえの防災大賞
受賞時から
発展している
活動は？

- ・「港地区防災連携企業」に、毎月開催する港地区防災運営委員会に参加してもらい、企業目線のご意見をいただいています。
 - ・家具固定について、港地区独自で自主的に、無償で取り付けを実施しています。
 - ・平成20年から、継続して防災だよりを発行しています。
 - ・様々なテーマのサロンを開催しています。
- テーマ：防災を楽しく学ぶ、自力避難をめざす身体づくり、顔の見える関係づくりなど

- ・高齢者が多く、子どもが少ないため、防災知識の継承が難しくなっています。
- ・小学校区に3地区あるため、学校や子どもを巻き込んだ訓練を実施することに苦労しています。

苦労
しています

団体からの
メッセージ

コロナ禍の中、防災訓練を中止する地域も多いと思いますが、防災訓練を中止することになっても、訓練を計画し、内容を検討するその過程が重要です。港地区は、そこを大切にし、今年度訓練を中止しましたが、いつでも訓練ができる状態まで、内容の検討を行いました。



訓練の様子



総会の様子

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

災害弱者となる要配慮者に目線向け、「港地区支え合いカード」による福祉と防災を一体化したまちづくりに向けた取組は、これからますます必要性が増すと思います。コロナ後もこの取組をさらに進めて活動されることを期待しています。

[吉仲委員]

企業と連携した防災会議や合同訓練など、四日市コンビナート地帯に隣接する地域ならではの、多様な主体との協働による取組のモデル的な活動だと思います。

また、「港地区支え合いカード」に代表される福祉と防災が一体となったまちづくりについて、活動の展開に期待します。

[田部委員]

要配慮者への訪問など、細やかな心遣いを感じました。コロナ禍の中、防災訓練中止に至る苦渋の決断、心が痛みます。しかし、できるところでたゆみない取組の継続は凄いことです。小学校を構成する地区の子どもたちを巻き込んだ訓練の早期実現を期待しています。

[中村委員]

各種サロン活動が派生、発展されている点が興味深いです。きっかけは防災ですが、災害からの復興には異業種のサロン活動がプラットフォームづくりの基盤となることでしょう。益々の発展を祈念申し上げます。

[梅谷委員]

大賞受賞後、地域の企業も参加するなど活動が広がっているのは素晴らしいと思います。新型コロナウイルス患者のうち、無症状の人や軽症者は、避難所で過ごすことが想定されます。避難所のコロナ対策を検討するうえで、ゾーニングをしっかりと考えていただくことが重要になると思います。

[日沖委員]

近年、特に避難行動要支援者の逃げ遅れが課題となっているなか、20年以上も前から、福祉と防災が一体化したまちづくりに向けて、企業等とも連携しながら、継続・深化しながら進められている取組は、まさに自分たちの命と地域は自分たちで守るという模範的な活動です。

平成19年度「みえの防災大賞」受賞

団体紹介

平成7年の阪神淡路大震災を契機に発足したNPO法人で、地震や水害等の大規模災害発生時には被災地へ赴き、被災者への支援活動やボランティアセンターの運営支援活動を全国的に展開しており、今後は、県外のみならず県内でも展開していく予定です。

さらに、平常時には市民を対象とした地域の防災力向上の啓発活動も積極的に行うとともに、毎月の会議は20年継続して行っています。

また、「次世代へ繋ぐ防災教育」をテーマに、市や関係機関、地元の大学等と連携して「子ども防災サミット」の開催や、子どもたちと被災地を訪問し地元住民と交流を行うなど、将来の防災活動の中心となる子どもたちの防災意識の向上を図る活動を積極的に行っています。

ここをチェック！



- ☑ 「子ども防災サミット」の開催による次世代へ繋ぐ防災教育
- ☑ 考案した「LODE(※)」の全国展開

※「LODE」とは：平成26年度から29年度、図上災害訓練である「DIG(参加者が地図を使って防災対策を検討する訓練)」を改良・発展させるべく、岩手県立大学と共同で研究開発した、災害弱者(子ども、高齢者、障がい者)の災害時支援を重点に考えるための防災学習手法のこと。

新型コロナウイルス感染症の影響

- ・8月に予定していた「子ども防災サミット」を延期し、10月に開催しました。
- ・月例会の開催について、5月、6月、8月は中止し、7月は短時間で開催しました。

新型コロナウイルス感染症を想定した取組

- ・10月に、避難所を疑似体験して避難所での障がい者への配慮等について気づきを得て考えることをテーマとした「秋の子ども防災サミット」を開催しました。感染症対策として、ブラックライトを用いて正しく手洗いでできているかチェックを行うブース設置や、ビニール紐を用いて避難所における適切なスペースを確保するシミュレーションなどを実施しました。
- ・目の見えない子どもたちにも、正しくマスクが着用できるように、右下にボタンを付ける工夫を凝らしたマスクを手縫いで作成し、配布を行いました。

→工夫した点は？

中止決定の際にも、できるだけメンバーの意に沿う形で説明し、みんなでこの状況を乗り切るため意思統一を行いました。

→苦労した点は？

中止連絡をする際に次の開催を希望する声が多く、開催方法を検討することに苦労しました。

「DIG」を発展させた「LODE」を考案し、避難所での対応や暮らしの中で活かす防災対策のヒントを県内外に広めています。

みえの防災大賞
受賞時から
発展している
活動は？

団体からの メッセージ

災害はひとつとして同じものはありません。防災を啓発するときは、状況にあわせて常に変化させていくことが大切です。

自分たちに、今、何ができ、何が役に立つかを考え、すぐ実践に移す行動力と柔軟性が私たちの原動力となっています。



「秋の子ども防災サミット」の様子(ストローハウス作りと避難所の講義)

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

継続的な防災の取組を行う上で、次世代を担う子どもたちの防災に対する意識向上は重要だと思います。「子ども防災サミット」などを通じて、将来の防災活動の中心となる子どもたちの防災意識の向上により、コロナ後もさらに次世代に繋がる取組が継承されることを期待しています。

[吉仲委員]

阪神淡路大震災を契機としてNPO活動が全国的に活発になりましたが、まさに貴ネットワークはその先導的な役割を果たしてこられました。被災地での被災者支援活動やボランティアセンターの運営支援、とりわけ、「子ども防災サミット」など、防災の担い手育成の取組に期待します。

[田部委員]

防災といえば地域密着型が普通ですが、貴団体のような啓発活動及び理論構築も大切なことだと思います。得意とする分野での活動の広がりを期待します。

[中村委員]

県内でも群を抜いて多様な事業を実施されています。特に子ども関連の事業は経験豊富なうえ、なおいっそうキメ細かい視点で捉えられており、我々も学ぶべき点が多いと感じます。

[梅谷委員]

「子ども防災サミット」は、毎年恒例となっていて、次世代の防災リーダーの育成にもつながる行事だと思います。新たに考案された「LODE」は、どの地域でも課題となっている要支援者対策を検討していくためのとても良い手法だと思いますので、コロナ禍にあっても県内外に広めていただければと思います。

[日沖委員]

被災者(地)支援やボランティアセンター運営支援などの災害救援活動をはじめとして、防災意識の普及啓発や人材育成などに継続して取り組まれているその活動の内容は、地域の防災力向上に寄与する優れた取組であり、さらなる展開が期待される活動です。

団体紹介

平成17年度に「住民による見守りネットワークづくり事業」を進める中で、特に要配慮者支援ネットワークを構築するための基本となる「災害時安否確認マニュアル」を策定しました。

また、平成19年度に自主防災実行委員会を発足し、消防団や社会福祉協議会との連携により安否確認等に重点を置いた合同防災訓練を実施するとともに、防災無線による交信訓練や防災保有資材の点検、参加者に対するアンケートを実施しました。

さらに、「災害時安否確認マニュアル」に係る各区の取組の情報交換を行い、「安否確認・避難支援登録シート」の作成、「福祉(支え合い)マップ」の更新等大規模災害では公的な支援は望めないという認識から、自分の地域はみんなで守るという共助の取組を実践しています。

ここをチェック！



- ☑ 「災害時安否確認マニュアル」の整備
- ☑ 新型コロナウイルス感染症を考慮した分散避難の取組や避難所における対策の検討

新型コロナウイルス感染症の影響

定例会や委員会、スタッフの訓練を実施できませんでした。

新型コロナウイルス感染症を想定した取組

- ・合同防災訓練では、新型コロナウイルス感染症を考慮した訓練として、以下2点を実施しました。
 - ① 訓練想定に対する分散避難先を家族単位等で話し合った後、自分の避難先はどこかについてアンケートを実施しました。地域住民(約3,000人が回答)の半数以上が離れ等を含む自宅に避難すると回答し、指定避難所と続きました。親戚・知人宅等やホテル・旅館等に避難するとの回答もありました。
 - ② 被災直後の安否確認を「三密」を考慮して組ごとに実施し、報告する方法で実施しました。
- ・指定避難所の収容人数について、1人当たり4㎡の占有面積と、感染症対策としての距離を考慮して、各指定避難所に概ね何名の避難者を受け入れられるか、また、体調不良者や要配慮者の居住スペースの確保をどうすれば良いかについて関係者で検討しました。
- ・熊本地震を契機に各区に選定した「車両避難所適地」について、コロナ禍の分散避難に活かせると考えています。

→工夫した点は？

実施可能な訓練内容に変更して行いました。
また、会議は臨時会議を設定して時期をずらして開催しました。

→苦労した点は？

3か月先の防災訓練時どのような状態になっているかを想像することが困難で、原案の作成に苦労しました。

みえの防災大賞
受賞時から
発展している
活動は？

大賞受賞後約10年経過した平成31年4月に、「柘植地域自主防災マニュアル」として、3編からなる防災マニュアルを改編しました。

防災・減災は本来住民全員が対象であるのに、その核となるリーダーの交代者が少ない(いない)ことに困っています。特に現在は70歳前後の者が担っていますが、30～50歳代の人への参加の呼びかけはどうしているか、他の団体に伺ってみたいです。

苦労しています

団体からの
メッセージ

多分、同じような悩みや問題点をお持ちのことと思います。市町や府県の枠を超えた連携で解決できることもあり、私たちが勉強になるので、話し合える機会があると良いですね。



平成28年度合同防災訓練の様子



平成28年度防災マップづくりの様子

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

「災害時安否確認マニュアル」を基に要配慮者支援のネットワークを構築し、地域での支え合いを強化し、自分の地域はみんなで守る、共助の意識向上の取組は、災害時の対応に大きく寄与できると思います。コロナ後も共助の意識向上を考えた活動がさらに進むことを期待しています。

[吉仲委員]

「災害時安否確認マニュアル」や消防団体、社会福祉協議会と連携した安否確認に重点を置いた合同訓練など、まさに、自分の地域はみんなで守るという共助の取組を実践されています。車両での避難等を想定した取り組みなど、様々な角度からの活動も素晴らしいです。

[田部委員]

細やかな配慮ある運営に感服です。成熟社会になると、どうしても自己本位の考え方をする人が増えていきます。故に、担い手不足はあらゆる分野に共通した課題になりますが、意気を感じている方は必ずいらっしゃいます。頑張ってください。

[中村委員]

コロナ禍における分散避難という視点は本当に大切です。そして分散された時の情報の共有をどうするか、柘植地区モデルというものを生み出せるポテンシャルはお持ちだと思いますので、ぜひチャレンジしてください。新しいことへのチャレンジこそ、次世代への継続が生まれる可能性をもたらすと思います。

[梅谷委員]

「車両避難所適地」の選定は、興味深い取り組みです。新型コロナウイルス感染症対策は長期で考えなくてはならず、そうすると、密を嫌って車両避難する人が増えることが想定されます。「車両避難所適地」の選定にあたり、どういう条件を付けたのか、どうやって過ごしてもらうことを想定しているのかなど、詳しく知りたいと思いました。

[日沖委員]

要配慮者支援をベースに、「災害時安否確認マニュアル」を策定のうえ、区単位での情報交換、安否確認や避難支援を進められているほか、家族単位でアンケートなどを行い地域活動につなげている取組は、共助を進めている他の地域に大変参考となる活動です。

団体紹介

「わが地区からは一人の犠牲者も出さない」との信念で、即戦力となる防災に取り組んでいます。特徴的な取組としては、災害時などの緊急時に資機材や重機などにより救出活動に協力可能な地元事業所を募集し、「災害時協力企業」として災害時協定を締結しており、会報や防災講演会などで紹介するとともに、防災訓練にも協力企業として参加しています。

また、町内にある介護施設と協働した合同訓練の実施や、小学校・幼稚園の全面協力を得ての全児童が参加した訓練の実施など、若い世代も巻き込んだ地域一体となった防災活動が行われています。

ここをチェック！



- ☑ 「災害時協力企業」を募集し、地元企業と災害時協定を締結
- ☑ 介護施設や小学校等と連携した地域一体の取組

新型コロナウイルス感染症の影響

密を避けるため、

- ・6月に開催予定であった防災訓練や、秋に開催予定であった講演会を中止しました。
- ・防災啓発車(地震体験車)の派遣を中止しました。

独自の取組

有資格者による消火器の点検活動を実施しています。

消防設備士などの有資格者が各所へ出向き、住宅に設置の消火器を分解点検し、安全に使用できるかについてチェックを行っています。



過去の防災訓練での地震体験車、消火器使用体験の様子

みえの防災大賞
受賞時から
発展している
活動は？

県内の住民協議会や、県外の自主防災組織などからの視察の依頼が増加しました。

訓練等への若い層の参加が少ないことに苦労しています。
そのため、参加者の大半が中高年でメンバーが固定化している状況です。

苦労しています

団体からの
メッセージ

色々なノウハウを持っている社会福祉協議会と協力し、連携体制を構築
することが大切だと思います。



過去の防災訓練での消火器使用訓練、煙体験の様子

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

災害時に対応できる地元企業の存在は不可欠で、「災害時協力企業」を募集して災害対応に対する協定を締結することで、地域を守る取組を行うことは大変重要だと思います。

コロナ後も地域住民の方と協力企業が一体となってさらに活動が進むことを期待しています。

[吉仲委員]

地元企業と災害時における資機材や重機などにより救助活動に協力してもらった災害協定の締結や、介護施設と協働した合同訓練、小学校・幼稚園の全児童が参加する訓練など、まさに、「わが地区からは一人の犠牲者も出さない」という、みなさんの強い決意に敬意を表します。

[田部委員]

残念なことです。社会性を持たない若い層が増えているのは否めない現状です。そして、コロナ禍はさらに拍車をかけていると思っています。でも、諦めず働きかけをしていく努力を続けてください。

[中村委員]

介護施設との合同訓練が興味深いです。コロナ禍での訓練は、本当に訓練実績の必要な、いわゆる災害弱者が訓練に参加しづらい状況もある中で、どのような工夫や課題があったのか、ぜひ情報発信していただけると嬉しいです。

[梅谷委員]

若い層の参加が少ないとのことですが、独自の取組である消火器点検で、若い世帯に行くことはありますでしょうか。もしあれば、チャンスです。消火器の点検をしつつ、ついでに被害想定や避難所のことなど、世間話のような形でお話されてはいかがでしょう。それをきっかけに、興味を持ってくれる人も出てくるのではないのでしょうか。

[日沖委員]

「災害による犠牲者を一人も出さない」という考えのもと、毎年継続して様々なメニューを取り入れ、企業協力なども得て実施している訓練は実践的な内容であり、特に小学校との開催や近隣地区との連携強化等の活動は継続した取組でもあり、他地区の参考になる活動です。

かめやま防災ネットワーク

亀山市

平成24年度「みえの防災大賞」受賞

団体紹介

亀山市在住のみえ防災コーディネーターにより、平成19年に組織されたボランティア団体です。地域の防災力向上のため、子ども防災教育の活動、地域への防災出前講座の活動、防災資機材の点検・取扱の指導を行うなど、学校・家庭・地域と連携した防災活動を行っています。また、井田川小学校にて、「防災クラブ」で年5回学習をしています。近年は、主に小学4年生を対象に実施しており、これは、4年生の防災学習リーダー育成という学校の方針に沿ったものです。新たに、女性のための防災講話や、初めての試みとして地域の防災マップを使ったジグソーパズルの実施のほか、指定避難所ごとの「HUG(避難所運営ゲーム)」の実施を提案するなど、女性のための防災啓発や学校への防災教育の推進など、さらなる活動の展開が期待されます。

ここをチェック！



- ☑学校・家庭・地域と連携した防災活動の継続
- ☑子どもや女性にも目を向けた幅広い活動展開

新型コロナウイルス感染症の影響

定例会は密となること、メンバーから開催にあたり不安の声もあったことから、11年間毎月開催している定例会を中止せざるを得ませんでした。(8月から再開)

新型コロナウイルス感染症を想定した取組

- ・非接触型体温計を2台購入し、「HUG」や講話等で使用していきます。
- ・机・椅子・座布団などがあり、炊事もできる地域の集会所への避難について提案しています。
- ・避難情報を避難所を経由して市へ報告するなど、情報共有による連携も図っています。

独自の取組

学校との連携のほか、7月には、川崎地区まちづくり協議会・亀山市防災安全グループ・避難所の建物管理者である小学校教職員と合同で、勉強会や「HUG」を実施しました。

みえの防災大賞
受賞時から
発展している
活動は？

令和元年より、指定避難所に重点をおき、市とも協力しながら避難所の資料や物品の見直しを進めています。
また、最近では、「HUG」の実施を継続的に行うよう提案しています。

防災啓発をして約12年が経ちますが、防災に関心のある方とない方の二分化があると感じます。

避難訓練についても、一家族一人の参加が多く、家族全員に認知されているか不明で不安であるため、他団体はどういう方法を行っているか知りたいです。

苦勞しています

団体からの メッセージ

一過性のイベントではなく、地道にコツコツ活動することが大切です。
「初心を忘れずに」をモットーに！！



令和元年度 井田川小学校 「防災クラブ」の様子



令和元年度 タウンウォッチングの様子

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

次世代を担う子どもたちの防災意識向上の取組は重要だと思います。いろいろなイベントを通じて子どもたちと一緒に活動は、地域全体の防災意識の向上にも大きく寄与すると思います。コロナ後も種々のイベントを通じて、さらに活動が進むことを期待しています。

[吉仲委員]

子ども防災教育や地域での防災出前講座など、学校、家庭、地域と連携した防災活動は、地域防災力向上に極めて有効だと思います。さらに、中学校での防災教育、女性のための防災教室など、まさに、地域に根付いた活動を地道に展開されることで、参加の輪が広がることを期待します。

[田部委員]

津波の心配はなくても、住んでいる地域で予想し得る災害に備えた地道な実地訓練も重要なことだと思います。

[中村委員]

お悩みの点は、全国共通のものですね。防災と一口にいってしまうと伝わりにくいのですが、できるだけ被災モデルを具体的に想定することからではないでしょうか。防災マップにも反映していただくとうれしいと思います。

[梅谷委員]

一家族に一人しか参加せず、浸透しているかを心配されていますが、その一人がしっかり行動できるようになれば、その家族はついてくるのではないのでしょうか。

全員に参加してもらうことは理想ですが、現実には難しいことです。そこは割り切って、一家族に一人、「家庭の防災リーダーを育てる」という意識をもって取り組んでみてはいかがでしょうか。

[日沖委員]

県内における、みえ防災コーディネーターが集まった活動の代表例であり、地域防災力の向上に向けて、子どもや女性を対象とした取組も積極的に行っており、学校・家庭・地域の連携も踏まえた地道な取組は、これからも一歩一歩、長く続けていただきたい活動です。

団体紹介

17の自治会と地域の学校が一体となって活動し、地域住民の安全と、災害に強い安全安心なまちづくりをめざし活動しています。

地域住民に自分の地域を知ってもらうために、地震・津波・液状化についての正しい知識の啓発や、大規模災害発生後の避難所生活へのスムーズな移行のため、地区内施設の有効利用や、他地区住民の受け入れ、帰宅困難者の対応について協議するとともに、海岸地域との合同懇談会も開催しています。

また、各自治会から、自治会長以外の人を防災リーダーとして選出してもらい、この人たちを中心に教育や研修を実施し、年1回の避難所運営訓練では、防災リーダーが中心となって訓練を実施しています。

数年にわたって防災活動を行っている役員が中心となり勉強会を行うなど、訓練を繰り返し行うことで経験者を地域に増やし、いざという時避難所で核となれる人材を増やすよう取り組んでいます。

今後は、地区内にある4つの避難所との連携を明確にしたマニュアルの作成と、それを使用した訓練の実施を予定しています。

ここをチェック！



- ☑防災リーダーの育成
- ☑住民自治による避難所運営を目指した取組

新型コロナウイルス感染症の影響

- ・総会を書面で開催しました。
- ・各種研修会や訓練を中止しました。

新型コロナウイルス感染症を想定した取組

- ・避難所に区画テント、マスク、フェイスシールドを導入しました。
- ・新型コロナウイルス感染症対策を反映させたマニュアルを作成しています。
- ・家族単位のテントを準備するほか、受付の屋外対応などの対策を実施するとともに、対策も検討しています。

みえの防災大賞
受賞時から
発展している
活動は？

防災リーダーの育成を毎年行っており、このリーダーを中心とした避難所運営訓練を実施しています。

毎年のように自治会長、役員が交代するため、自治会によるボランティア活動となることから、人材の確保が難しいです。

苦労しています

団体からの メッセージ

防災活動は自助が基本です。行政に任せきりにせず、自分たちの命は自分たちで守るという意識付けがスタートの基本となります。



過去の訓練の様子



過去の防災人材育成研修会(総務班)

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

自治会と地域の学校が一体となり、次世代の子どもたちや女性への啓発活動を通じ、災害に強い安全安心なまちづくりに取り組まれていることは、地域全体の防災・安全に対する意識の向上にとって重要だと思います。コロナ後も、地域全体の意識向上によりさらに活動が進むことを期待しています。

[吉仲委員]

17という広範囲な自治会が連携した活動で、自分の地域を知る活動や、学校と連携した次世代の防災教育、女性等を対象とした防災啓発活動、とりわけ防災知識を持った経験者を地域に増やす活動など、まさに、自助を基本とした取組に敬意を表します。

[田部委員]

組織的な取組になっていると感じます。組織を確立することは難しいことなので、しっかりとリーダーの存在を感じました。

女性や子どもなど弱者への配慮もさることながら、他地区の住民を受け入れるなど、希薄な人間関係が当たり前の昨今、希望を感じました。

[中村委員]

防災活動のベテランと初心者がうまくかみ合っている地区とお見受けしております。事業のマニュアル作りにも長けておられるので、ぜひお手本にさせていただければと思います。

[梅谷委員]

すでにコロナ対策も含めたマニュアル作り着手されているとのこと、その行動の早さはさすがです。

南が丘地区自主防災協議会の避難所マニュアルはお手本としている地区も多いので、今回、コロナ対策を含めたマニュアルが完成したときは、ぜひ横展開していただきたいです。

[日沖委員]

避難所運営や防災啓発の取組をはじめ、海岸地域からの避難受け入れ訓練や地域と学校との協働による次世代の育成、さらに防災リーダーの育成による地区の核となる人材を増やす取組など、積極的かつ幅広い取組は、新興住宅地での防災まちづくりの模範となる活動です。

田曾浦区自主防災隊

南伊勢町

平成27年度「みえの防災大賞」受賞

団体紹介

住民が自主的な防災活動を行うことで、地域住民の防災意識の向上につなげることを目的として、平成17年から活動しています。

毎月1日に防潮扉開閉訓練、防災機器作動訓練など定期的な訓練の実施や、「田曾浦区防災ハンドブック」の作成・更新を行っています。

また、自主防災隊と民生委員が全世帯を訪問し、災害時・日常の緊急時における適切な対応、緊急連絡先への報告などに活用することを目的とした、地区住民すべての住民情報統合システム「田曾浦見守りたい名簿」を作成するとともに、住民参加協力による避難路整備や、一時避難所における備蓄品の点検・各個人の非常持ち出し品の管理など独自の避難対策を行い、平成26年からは、女性中心の避難所運営訓練として、女性セミナーの開催や、避難所運営訓練を実施しています。

さらに、独自の取組として、各世帯の備蓄品の避難場所への保管や、備蓄用非常食の共同購入、避難者情報カードをデータ化して施設別、部屋別で登録することにより、避難者を一元管理する「避難者情報管理システム」を構築するなど、積極的な活動を行っています。

ここをチェック！



- ☑ 「田曾浦見守りたい名簿」の作成や「避難者情報管理システム」の構築など、住民一体の防災活動
- ☑ 備蓄用非常食の共同購入

新型コロナウイルス感染症の影響

区内避難所における住民参加の備蓄毛布等の衛生点検、個人備蓄品点検を担当者のみで実施しました。

新型コロナウイルス感染症を想定した取組

- ・地区でマスク3,000枚、非接触型体温計3個、除菌水20ℓ×4つを備蓄しました。
- ・今後、施設での感染症対策を検討します。
- ・避難所運営マニュアルを改定予定です。
- ・避難所において、感染症の疑いのある避難者を入所させる部屋の検討を行いました。

みえの防災大賞受賞時から発展している活動は？

- ・1世帯につき、月100円×5年で、全住民3食×5日分の備蓄を想定し、住民協力で非常食を備蓄しており、今年度で4年になります。
- ・防災用キャンプ TENT を50基備蓄しており、今後感染症対策に活用します。
- ・避難所運営マニュアル改定後、住民参加での避難所開設・運営訓練を実施したいと考えています。

自主防災隊員全員のモチベーションを維持することに苦労しています。

苦労しています

団体からの
メッセージ

地区をよく知ることと、住民参加型で楽しみながら活動していくことが大切です。



ヘリコプターを使った訓練の様子



備蓄毛布等の衛生点検の様子

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

地域住民情報を「田曾浦見守りたい名簿」として作成されていることは、地域住民皆様の理解が得られないとなかなか難しいことだと思いますが、災害時に適切な対応を行う上で大変重要なものになると思います。コロナ後も地域住民のつながりを活用したさらなる活動を期待しています。

[吉仲委員]

津波被害が想定される地域において、毎月の防潮扉開閉訓練、防災ハンドブック作成など防災の日常化に向けた取組、民生委員と連携し「田曾浦見守りたい名簿」の作成、避難経路の整備や、女性中心の避難所運営訓練など、まさに、住民参加型の防災活動に敬意を表します。

[田部委員]

地域に密着した細やかな配慮を感じます。そして、ややもすれば避難所においてすら、被害者になりかねない女性を中心にした避難所運営の学びは、非常に重要だと思います。

[中村委員]

「田曾浦見守りたい名簿」の利活用が大きなポイントかと存じます。常にある災害弱者への配慮には敬服いたします。次の大規模災害時からの復興には、情報共有のツールとしてスマホやタブレット端末などが活用されると思われしますので、名簿との連携などを視野に入れていただければ備えにつながるかと思います。

[梅谷委員]

食料備蓄の取組は、コツコツやることの大事さを教えてください。1世帯あたり月100円なら、それほど大きな負担にはならないと思います。その小さな負担で、5日間分の食料の備蓄ができるという安心感が得られるのですから、費用対効果が高い取り組みです。今後は、備蓄した食料を訓練で使うなどして、うまく管理していただければと思います。

[日沖委員]

身軽に迅速に避難するために避難先の防災倉庫への非常用荷物の備蓄、女性を中心にした避難所運営訓練、区独自の防災ハンドブックの作成等、地域の実情や特徴を踏まえた活動とそれを改善、進化させていく取組は、特に過疎高齢化が進む他地域の模範となる活動です。

団体紹介

「私たちの地域だからこそ 私たちでやりたいことがある」をテーマに、小学校区を基本単位として平成25年から活動しています。

平成27年度からは小学校と連携し、小学生を対象とした防災講座「地域の子どもたちと考える地域の防災対応力」において防災講演会を行うとともに、学校やアドバイザーと連携し、小学生向きに作成したカード(浜郷ハグハグ)を使用した避難所運営ゲームを実施しています。

それぞれに課題を抱えている5つの自治会をまとめて取組を進めていることや、作成する「防災3ヶ年計画」に基づいて毎年発展した取組を行っており、地域全体の防災意識の向上に大きく貢献しています。

ここをチェック！



- ☑小学校と連携した防災活動の次世代への継承
- ☑「防災3ヶ年計画」による発展した取組の継続

新型コロナウイルス感染症の影響

- ・実施予定の防災学習会と視察研修が実施できませんでした。
- ・4月から防災総合委員会及び役員会等において協議ができず、取り組み開始が大きく遅れました。

新型コロナウイルス感染症を想定した取組

- ・いち早く、自治会及び協議会が動けるようマスク消毒液等を確保し、自治会に配布しました。
- ・例年は、避難から避難所運営までの防災訓練を行っていましたが、今年度は規模を縮小し、避難訓練のみを実施しました。
- ・感染症予防物品(フェイスシールド・マスク・ガウン・キャップ・手袋等)を購入し、使用訓練を実施します。

→工夫した点は？

今年度については、多くの地域において行事を中止していますが、現在の状況下で新型コロナウイルス感染症と向き合いながら取り組んでいます。

→苦労した点は？

協議会は代議員において構成されているため、自治会が動き始めないと本協議会も動きません。また、協議会の会議も、感染症予防のため開催が遅れました。

みえの防災大賞
受賞時から
発展している
活動は？

大賞受賞後、課題を明確にし、行政と協議会の連携と要配慮者対策に取り組んでいます。

本協議会の大きな課題ともなっている、災害弱者である要配慮者対策について、他の団体の取組や活動の工夫を聞きたいです。

他団体に聞いて
みたいです

団体からの メッセージ

新型コロナウイルス感染症の影響で、多くの自治会・自主防災組織が防災訓練等を中止していますが、自然災害は新型コロナウイルス感染症の終息を待ってはくれません。

新型コロナウイルス感染症と向き合い、今の状態の中でできることはないかを見極め、今できることを実施していくとともに、行政と密に連絡を取りながら取り組んでいく事が必要だと思っています。



令和元年度総会



過去のワークショップの様子

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

小学校区を基本とした小学校との連携で、次世代を担う子どもたちの防災意識の向上の取組は重要だと思います。自然災害はコロナ終息を待ってくれないとの意識は、実践での防災を考える上で大変重要なことです。コロナ後もこれらの活動がさらに進むことを期待しています。

[吉仲委員]

小学校と連携した小学生向けの防災講座や避難所運営ゲームなど、防災意識の醸成、さらには、地域防災の担い手育成につながると思います。今後は、自治会へのマスクやアルコール配布などコロナと向き合った活動についても、一層発展されることを期待します。

[田部委員]

子どもたちが防災を意識することで、自分のことは自分で守ることにつながっていくことを期待しています。

[中村委員]

明確に校区での活動と位置付けられているのが浜郷地区まちづくり協議会の特徴です。世代間共有は比較的得意とされているのではないのでしょうか。浜郷ハグハグのアクションカードにはそのあたり反映されているのかと推察いたします。感染症対策ネタなど、新たに盛り込んでいただければと思います。

[梅谷委員]

コロナに負けず、何としても防災の火を消さないという強い意志を感じます。おっしゃるとおり、コロナだからと言って災害は待ってくれません。実際に令和2年10月末にはトルコで地震と津波が発生しています。

今年度は、規模を縮小して訓練を実施したということですので、コロナ禍でもできる訓練の好事例を作っていただければと期待しています。

[日沖委員]

小学生への防災講座や、小学校等と連携し小学生用に作成したカードによる「HUG(避難所運営ゲーム)」等の独自の取組をはじめ、防災学習会、津波避難訓練、図上訓練等に計画的に取り組まれており、また課題を明確にしてさらなる取組へ進んでいく活動は、他地域の模範となる活動です。

〔紹介者〕 桑名市 防災・危機管理課

団体紹介

大和地区では、3年に一度、連合自治会主催の防災訓練を実施していましたが、近年の災害は複雑多様化しており、また被害も甚大化傾向であることから、危機感を持った有志が集まり、平成28年に準備委員会を設立し、平成29年に現在の連絡協議会が発足しました。

組織は3地区126名で構成されており、地区組織には会長、地区副会長、地区防災隊長、地区防災リーダー、専門班(5班)と、災害時の役割が明確に分担されるなど統制のとれた体制を整備しています。

発足後、毎年1年を通して、訓練をはじめ定期総会や各役員会、他地区視察、組織強化のための会則改正、防災新聞の発行などの地域の防災啓発活動や、「マチコミメール(※)」や人材バンクへの登録など、様々な分野での活発な活動を展開しています。

地域の特性や現状の災害を想定した実践的な取組を進めるなど、向上心を掲げた活動を行っています。

※マチコミメールとは：地区住民があらかじめアドレスを登録しておくことで、いざという時に一斉にメールで連絡できるように整備されている緊急連絡網システムのこと。

ここをチェック！



- ☑ 「マチコミメール」の構築による全世帯への情報提供体制の構築
- ☑ 災害時の役割を明確に分担した組織体制の整備

団体独自の活動は？

- ・「マチコミメール」で、瞬時に全世帯に情報提供ができる体制を整備しています。
- ・年2回防災新聞を発行し、全世帯に配布しています。
- ・企業と「災害時における支援施設の提供に関する協定」を締結しています。
- ・災害発生時に技術や知見等を有する地域住民の力を借りるため、協議会の防災人材バンクへの登録を促しています。
- ・協議会の役員と実行委員での視察研修を、毎年継続して実施しています。

新型コロナウイルス感染症の影響

視察研修、地区防災訓練を中止しました。

→工夫した点は？

定期総会については、6月10日に令和2年度第1回役員・プロジェクト推進委員と、出席を要請した顧問による合同会議を三密対策を行って開催しました。

また、各議案について協議・検討し、賛成多数で可決した議案書を全防災隊員に配布し、書面表決を行いました。

→苦労した点は？

書面表決を実施することに手間がかかりました。

団体からの
メッセージ

地区の自治組織との連携・協力体制が大切です。

令和元年度 災害図上訓練の様子



令和元年度 避難所運営訓練の様子



避難時は混乱が予想される中、避難者を見分けやすくするため作成した「避難者用滞在ネームプレート」、そのほか、防災隊員用に役名入りの腕章も作成

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

自治組織の連携・協力体制の構築により3地区が一体となった活動は、広域の防災活動を進める上で重要なことだと思います。防災新聞やメール等の防災啓発活動は、コロナ禍でも有効な取組だと思います。今後もこれらを活用した広域での活動がさらに進むことを期待しています。

[吉仲委員]

災害時の役割を明確にした統制のとれた組織体制を整備されています。特に、定期的な訓練、視察研修、防災新聞の発行、瞬時に全世帯に情報提供できる「マチコミメール」の整備や災害発生時に技術や知見を活用するための防災人材バンク登録など、今後の活動の発展に期待します。

[田部委員]

しっかり組織化されており、しかも機能させる運営体制がなされていることは素晴らしいと思いました。欲を申し上げれば、組織内の具体的な取組や充実を図ることに終わらせず、お力をお持ちなので、もっと連携を広げられるのではないかと思います。

[中村委員]

「マチコミメール」の仕組みは素晴らしいと思います。そのうえで、情報発信の主体となる人材やアクションプランを十分に吟味していただくと申し分ないところかと思えます。大所帯でなにかと大変かと思えますが、益々の発展を祈念いたします。

[梅谷委員]

「マチコミメール」への登録は、順調に増えているのでしょうか。コロナの影響で、防災訓練を中止したとのことですが、「マチコミメール」を活用すれば、訓練ができそうです。例えば、メールで一斉に訓練開始と被害想定等を伝え、家庭内で身を守る行動等をとってもらおう、というのはいかがでしょうか。参加者の管理は難しくなりますが、啓発にはつながると思います。

[日沖委員]

全世帯への新聞の発行やメールでの情報提供体制の整備をはじめ、防災人材バンクへの登録や企業との災害時協定の取組など、平時からの地道な活動と非常時にも備えた積極的な活動を展開されており、今後、益々の実践的な活動の進展を期待します。

〔紹介者〕 四日市市 危機管理室

団体紹介

平成27年「女性のための防災教室」の参加者を中心に、防災教室を企画・運営する仲間を募り、発足しました。防災教室の対象者も女性から子ども、高齢者など、参加者にあわせて内容を工夫し、地区内外で教室を開催しています。女性目線を大切に、備えの必要性について意識してもらえるよう伝え方を工夫しています。

また、オリジナルキャラクターの「キュマちゃん」を考案し、防災啓発を実施しています。住民が自ら自分の命を守る大切さを発信する活動は親しみやすく、教室参加者からの共感も得ています。

さらに、小さな子どもでも自分の命を自分で守る意識付けとして耳に残るフレーズとポーズが特徴的な「防災体操あいうえお」の考案や、自治会・学校・長寿会・他地区の自主防災組織・企業など様々な団体からの防災教育の依頼に応えています。

女性防災人材の育成やマンネリ化しない活動は、メンバーの防災知識の向上につながっています。



キュマちゃん

ここをチェック！



- ☑女性目線を大切にした防災活動の展開
- ☑独自のグッズや体操の考案による、子どもから高齢者まで幅広い年代に向けた防災啓発

団体独自の活動は？

- ・楽しく続けられなければ疲弊してしまうため、常に新しい取組(グッズ作成・役割を固定化しないなど)を行ってきました。
- ・子ども向けに「防災体操あいうえお」を考案し、啓発活動を行っています。
- ・女性向け防災訓練では、消防団と連携し、倒壊家屋からの救出訓練などを行いました。また、防災倉庫の衛生用品などの備蓄品の保管方法を見直しています。

新型コロナウイルス感染症の影響

- ・6月に実施予定の女性防災教室を中止し、子ども向け防災教室を計画できませんでした。
- ・小学校から依頼された講演会が延期になりました。

新型コロナウイルス感染症を想定した取組

防災倉庫の備蓄品に消毒剤やマスクの追加購入を提案しました。県地区総合防災訓練では、三つの密を避けるため、規模を縮小し、女性向け防災訓練として実施しました。

→工夫した点は？

メンバーの防災力向上を目的に、今後の活動を話し合ったり、地区の防災倉庫点検のメンバーとして、倉庫内の備蓄品について気付いたことを提案するなど、女性目線の発言を伝えるようにしました。

→苦労した点は？

コロナ禍で自主防災協議会総会が中止となったため、女性防災の提案や活動を協議会の方に伝える機会が減り、なかなか活動への理解が深まらないことに苦労しています。

地震による被害が比較的少ないと想定される地域であることから、災害への備えが身近にならない場所で防災活動を伝えていくには、モチベーションを上げ続ける工夫が必要です。

苦労しています

団体からの メッセージ (活動のヒント)

普通のおばちゃんが、自らの災害への備えを防災講座で学び続けるうちに、「自分ひとりの力だけでは乗り越えられない、公助も不安、じゃあ地域力だ!」と気づき、周りの人に伝えると仲間が集まり、一人ではできないこともみんなで考え、教室を開催してみると、色んな方法で防災について伝えることができるとわかりました。気負わず、楽しく、それが自主的な防災活動だと思います。



「防災体操あいうえお」



女性向け防災訓練

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

女性のための防災活動を行っている「県地区女性防災クローバー」は、防災における女性目線の活動にとって大変重要だと思います。オリジナルキャラクターによる防災啓発など、コロナ後も女性目線でのさまざまな防災活動の取組を行い、地域に広く発信していただくことを期待しています。

[吉仲委員]

女性目線を大切に災害を身近な問題として捉えてもらう活動であり、オリジナルキャラクターの作成や、小学生、お年寄りグループなど多様な方々への啓発活動に敬意を表します。これからも、気負わず、楽しくをモットーに、住民主体の自主防災のモデルとしての活動に期待します。

[田部委員]

社会的弱者の女性と子どもに視点を当てた活動に拍手です。避難所などで起こり得る性被害のことも、ぜひ視野に入れた動きを行っていただきたいと思います。貴団体だからこそできることだと思っています。

[中村委員]

被害想定が低いところで、防災活動のモチベーションを維持することは本当に大変ですね。大きな被害を受けた他地域とつながり、ぜひご活躍いただくことを期待します。困難なことはオープンにさせていただくと、思わぬ協力者が現れることもあるかと思いますが、味方を増やしていければよろしいかと思います。

[梅谷委員]

いつも楽しく防災を考える企画をしてきた皆さんですから、イベントを中止せざるを得ない状況にあることで、歯がゆい思いをされていることと思います。そんな中でも、備蓄品の提案や衛生用品の保管等の検討は、皆さんでなければできない活動です。女性向け防災訓練や、コロナ禍でどのような工夫をされるのか、機会があれば教えてください。

[日沖委員]

災害時に自分の命は自分で守るという明確な考えのもと、女性の目線で、女性の防災教室や子ども向けの防災教育等の取組を進められており、オリジナル曲やグッズの作成、あがたっこ防災レンジャーの任命等、独自の楽しく取り組む活動の今後の更なる広がりを期待します。

団体紹介

白塚地区自主防災協議会は、津市自主防災協議会津支部に所属する白塚地区の住民を中心とした自主防災協議会です。伊勢湾に面し、常に地震による津波の危険が危惧される場所に位置しています。

例年、市と連携しながら防災訓練や研修会を行っており、地区住民と積極的に防災活動を展開しています。

昨年度は、伊勢・三河湾内に津波警報が発表されたことを想定した避難訓練を実施し、地域住民や企業関係者、幼稚園児、小学校児童ら542名が参加しました。

今年度は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止の観点から防災訓練を中止しましたが、代わりに、簡潔に要点をまとめた防災啓発リーフレットを作成し、白塚地区の全世帯に配布しました。

住民一人ひとりが自らの身を守るための意識の向上と、地域内での助け合いによる共助の強化を図り、防災力の高い組織づくりを進めています。

ここをチェック！



- ☑活動が制限されるなかでも住民の防災意識を保つため、防災啓発リーフレットを配布
- ☑地域一体となった津波避難の啓発

団体独自の活動は？

海が近いところに位置するという地区の特性から、津波からの避難方法の啓発活動に積極的に取り組んでいます。また、昨年度の避難訓練の際には、避難経路や避難にかかる時間も考慮した上で、複数の避難場所を臨機応変に変更し、避難しました。

新型コロナウイルス感染症の影響

団体行動の自粛や、各協力団体の協力を得ることが難しく、地区における避難訓練が実施できませんでした。

新型コロナウイルス感染症を想定した取組

新型コロナウイルス感染症の流行前から、収容人数の不足などの現状での避難所の運営方法について検討を進めています。また、小グループごとに、研修会や訓練の実施や防災用品の確保などの防災活動の啓発に特に力を入れています。

→工夫した点は？

人と人との接触を避けることが求められているなかで、地域住民の防災意識を向上を図るため、全世帯に防災啓発リーフレットを配布しました。

→苦労した点は？

役員会で、防災の進め方や、実施する事業内容についてまとめることに苦労しました。

全世帯が、研修会や訓練などの防災活動に参加できるような防災活動の進め方に苦勞しています。

苦勞しています

団体からの
メッセージ

新型コロナウイルス感染症で活動が制限されることで、活動意欲の低下がないよう、防災活動を継続させていくことが大切です。



津波避難訓練の様子

「みえの防災大賞」選考委員からのコメント

[酒井委員]

地区住民の防災活動を展開されている中、活動が制限されるコロナ禍でも活動意欲が低下しないことを念頭に、防災啓発リーフレットを全世帯に配布し防災意識の継続を考えられた取組は重要だと思います。コロナ後も防災意識の継続活動がさらに進むことを期待しています。

[吉仲委員]

伊勢湾に面し、津波被害を想定しなければならない地域において、地域住民、企業関係者、幼稚園児、小学校児童など、参加者が500名を超える避難訓練を実施するなど、地域ぐるみでの防災活動や、新型コロナウイルス感染症への対応工夫など、様々な活動に敬意を表します。

[田部委員]

海が近いという課題を正面から受け止めて、日々防災に取り組む姿勢には頭が下がります。コロナで大変な昨今ですが、その中で、可能な活動の継続を試みるご努力に敬意を表します。

[中村委員]

避難訓練の参加者が多いと感じました。3密は避けながら、なおかつ顔の見える、小さな集まりをこまめに開催していただくことは必要かなと感じます。津波被害想定という明確な課題は共有できると思いますので、継続的に取り組んでいただき、中勢地区のモデルとなっただけならと存じます。

[梅谷委員]

訓練の代わりにパンフレットを配るなど柔軟に対応されていることは、地域の皆さんの防災意識を下げないために重要な取組だと思います。現在は、小グループでの研修会や訓練に力を入れているとのこと、密を避けた今後の訓練のあり方の一つとなりそうです。どのようなことをしているのか、もっと詳しく伺ってみたい取組です。

[日沖委員]

平日の津波避難訓練や、全世帯への防災パンフレットの配布等、地区での防災活動に積極的に取り組まれており、自助、共助の力を強化していこうとする取組は、地域の防災力の向上に欠かせないものであり、地域が一体となっただけなら今後のさらなる発展を期待します。

平成30年度「みえの防災大賞」受賞

団体紹介

熊野灘に面したリアス式海岸沿いに立地しており、津波による被害が懸念されていることから、災害に対する正しい知識と地域防災の現状・あり方を理解し、災害発生時に地域の一員として自らの課題や役割を見つけ、主体的に行動できる人材の育成に取り組んでいます。

平成24年度から、南伊勢町等と連携し、東北でのボランティア活動や研修を実施しており、県や南伊勢町等が主催する防災イベントにおいて、防災教育の取組や被災地訪問の内容を報告しています。

また、町や三重大学、NPO等と連携し、1・2年生の「総合的な探究の時間」において、防災教育を取り入れており、タウンウォッチングや避難所資機材等の確認、「HUG(避難所運営ゲーム)」などに取り組んでいます。授業の中では、非常食や簡易トイレ、レスキューシートなどの一晩過ごすために必要な防災用品を入れて携帯する「Myゼロパック」を考案し、平成28年度に、地元の福祉施設や漁業協同組合と連携し、商品化しました。

平成29年度には、県主催「学校防災ボランティア事業」に参加し、防災士の資格を取得した生徒が近隣中学校の生徒に防災学習会の講師を務めるなど、生徒が主体となった地域への啓発活動を積極的に行っています。さらに、新入生を対象としたタウンウォッチング、避難所の生活実態や運営イメージの学習など、様々な防災訓練にも取り組んでいます。

高校生の若い力は地域防災にとって大きな存在となっており、地域全体の防災意識の向上に大きく貢献していることから、他地域や学校等への広がりが大いに期待されます。

ここをチェック！



- ☑地域、町、大学、小中学校などと幅広く連携・協働した防災・減災活動の継続
- ☑一晩過ごすために必要な防災用品を入れて携帯する「Myゼロパック」を考案、商品化

学校独自の
防災訓練も
行っています

学校独自の避難訓練を年間2回(火災・津波)実施しています。

令和2年度は、9月に火災の避難訓練、11月に津波の避難訓練を行いました。

火災避難訓練では、全校生徒・教職員が連携し、安全・迅速な団体行動での避難訓練、消防団の指導による初期消火の訓練を行い、津波避難訓練では、震度6強の地震発生、さらには大津波警報が発表される状況を想定し、本校が設定している1次避難場所への避難訓練を実施しました。

津波避難訓練の様子



新型コロナウイルス感染症の影響

学校独自の防災活動・教育は予定どおり、感染防止を意識しながら実施できていますが、南伊勢町防災訓練への参加について、新型コロナウイルス感染症拡大防止を意図して不参加の地区があり、それに伴い不参加となった生徒がいました。

また、計画していた町の支援による「東北被災地ボランティア研修」が延期となりました。

新型コロナウイルス感染症を想定した取組

マスクの着用・手指の消毒・手洗い・密を避ける等の感染対策を講じた上で、町・三重大学・NPOとの連携のもと、1・2年生に防災教育を実施または実施予定です。

〈1・2年生「総合的な探究の時間」〉

- ・防災タウンウォッチング
- ・Myまっぷラン(一人ひとりの避難計画)の作成
- ・公的避難所(南勢中学校)を訪れ、資機材等の準備状況や広さなどを確認し、図面を確認して実際に被災したことを想定し、避難計画の作成につなげるフィールドワーク

→工夫した点は？

夏休み前後に、防災意識の向上と新型コロナウイルス感染症拡大防止のための行動(マスクの着用・手指の消毒・手洗い・密を避ける等)について、事前指導を行いました。

また、町の避難訓練では、天候にかかわらず傘を差して避難行動をとることで、ソーシャルディスタンスの確保を意識しました。

→苦労した点は？

訓練に参加する地区とそうでない地区があると、どうしても参加状況等に温度差が出てしまいます。そのため、訓練の実施時期も含め、改善できることはないか、町との懇談会で検討しています。



「HUG」の様子



南伊勢町防災安全課の講義の様子

本校と同様に、地域との連携・協働により、独自の取組をしている団体の活動例を知り、参考にさせていただきたいです。

他団体に聞いて
みたいです

団体からの
メッセージ

地域との連携・協働により、関わる人々と町を歩き、それぞれの視点でみえる防災・減災のポイントを集めれば、独自のハザードマップ、マニュアルづくりができると思います。

つながりあえばこそできる防災活動だと考えます。

ご協力いただいたみなさま

あがた

- ・県 地区女性防災 クローバー(四日市市危機管理室からの紹介)
- ・朝見まちづくり協議会
- ・NPO災害ボランティアネットワーク鈴鹿
- ・かめやま防災ネットワーク
- ・白塚地区自主防災協議会(津市防災室からの紹介)
- たいわ
- ・大和地区自主防災連絡協議会(桑名市防災・危機管理課からの紹介)
- ・田曾浦区自主防災隊
- ・柘植地域まちづくり協議会
- ・浜郷地区まちづくり協議会
- ・三重県立南伊勢高等学校南勢校舎
- ・港地区自主防災組織連絡協議会
- ・南が丘地区自主防災協議会

(50音順)



令和3年2月発行
三重県防災対策部
防災企画・地域支援課



〒514-8570 三重県津市広明町13
TEL : 059-224-2185
FAX : 059-224-2199
E-Mail : bosai@pref.mie.lg.jp

